



# メリハリのある音声表現で伝える英語プレゼン（配布資料）

大和, 知史

---

**(Citation)**

これから英語で研究発表を行う若手研究者のための学術英語スキルアップセミナー, 2019年度:1-5

**(Issue Date)**

2020-02-07

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90006754>





## ● メリハリのある音声表現にはプロソディが鍵：3つの原則とは

- ・ 英語を読む・話す際、プロソディに気を配ってみては？

### 英語プロソディ学習の3つの原則

1. 母音のあるところに拍がくる
2. 拍が2つ以上になれば、強弱を
  - 語強勢の形を確認
  - 弱は曖昧に早く
  - 強がおよそ等間隔でリズムを形成
3. 強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる。
  - 一番目立つ語が、focus word
  - 原則は、thought group の最後の内容語（核配置に関する原則）
  - そこでピッチを大きく変化させる（上昇・下降・下降上昇）
  - 別のところに来るということは意図がある

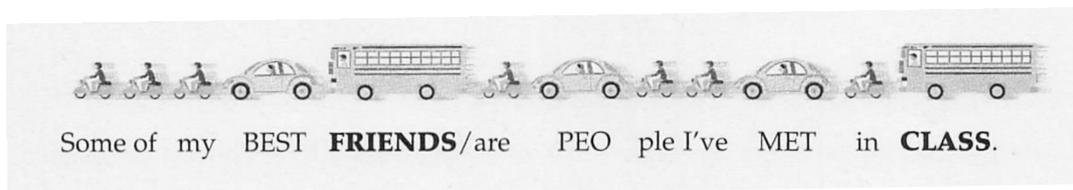
### 1. 母音のあるところに拍がくる

- ✓ どれにしようかな eenie meenie miney moe. ... (斎藤, 2008)
- ✓ ストレングス strength ストライク strike
- ✓ アルミニウム aluminum タンパク質 protein
- ✓ ご自身の専門領域や研究内容の専門用語ではどうですか？  
( )

### 2. 拍が2つ以上になれば、強弱を

- ✓ banana university communication
- ✓ engineer in the end He can hear.
- ✓ one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten, eleven, twelve
- ✓ examinee in case of rain I tried to stay very hard.
- ✓ 内容語と機能語（プレゼンの中だと、データ、否定語、比較描写の形容詞）
- ✓ ご自身の専門領域や研究内容の専門用語ではどうですか？  
( )

### 3. 強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる



(Grant, 2010 p.103)

- では皆さん自身で「やってみよう！」
- 自身の研究の概要を、1分程度で説明しましょう。

【原稿スペース】

- 原則その1** 単語で難しいのがあれば辞書でアクセントを確認
- 原則その2** アクセントの強弱，句レベルで強弱の確認，文で内容語・機能語の確認
- 原則その3** 区切りはどうかを確認，区切りの中の目立ちをどうするか確認，自分の主張したいこととの齟齬はないか確認

ペアの発表をメモしましょう（読み方・内容の両面から）

【メモ】

Check points	poor	fair	good	excellent
拍は？	1	2	3	4
強弱のメリハリは？	1	2	3	4
区切りと目立ちは？	1	2	3	4

## • Q&Aをしてみましょう

さきほどのペアの発表に対して質問をしてみましょう（参考資料A, C, & Dを参照）。

【メモ】

## • 普段からこんな練習はいかがでしょう？

- 3つの原則を基に、スクリプトの分析, からのリハーサル  
表現集も大事ですが、本当に大事なものは「…」や「～」のところですよ。
- 分かりやすく言い換えるために… “Mystery Words”
- とにかくペアでしゃべるために… “One Minute Chat”
- 図表などを描写する練習として… “写真で1分”

## 参考文献

- アンダーソン クリス (2016). 『TED TALKS: スーパープレゼンテーションを学ぶTED公式ガイド』 日経BP
- 青谷優子 (2017). 『英語は朗読でうまくなる！ アナウンサー直伝！ 伝わる英語を話すための10のテクニック』 アルク
- Grant, L. (2010). *Well said* (3rd ed.). Cengage Learning.
- 牧野武彦 (2005). 『日本人のための英語音声学レッスン』 大修館書店
- 町田健 (2017). 「英語とはどんな言語なのか—言語学者の見方—第2回 重要な音を特に目立たせる」 『英語教育』, 66, 2: 62-63.
- 松坂ヒロシ (1986). 『英語音声学入門』 研究社
- 野口ジュディー (監・著)・幸重美津子 (2007). 『理系たまごシリーズ4 理系英語のプレゼンテーション』 アルク
- 斎藤弘子 (2008). 「英語を支配するリズム, リズムが支配する英語」 小寺茂明・吉田晴代 (編・著). 『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』 松柏社 (pp.33-46)
- 静哲人 (2019). 『日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる発音の教科書』 テイエス企画
- 高山芳樹 (2019). 『最強の英語発音ジム』 アルク
- 竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子 (2013) 『改訂新版 初級英語音声学』 大修館書店

- 田中真紀子 (2014). 『英語のプレゼンテーションスキルアップ術』 研究社
- Wallwork, A. (2016). *English for presentations at international conferences* (2nd ed.). Springer.
- 渡辺和幸 (1994). 『英語イントネーション論』 大修館書店
- 大和知史 (2016). 「『英語のプロソディ指導における3つの原則』の提案とその理論的基盤」.  
柳瀬陽介・西原貴之 (編・著). 『言葉で広がる知性と感性の世界—英語・英語教育の  
新地平を探る—』 溪水社 (pp.219-231)

## 参考ウェブサイト

- 音節数を教えてくれるサイト (How many syllables) <https://www.howmanysyllkables.com>
- 博士論文を3分でプレゼンする大会 (Three Minute Thesis) のウェブサイト  
<https://threeminutethesis.uq.edu.ac>
- 岡崎体育の「冷蔵庫に貼ってあったメモ書きを英語風に読んでみた」ツイート  
[https://twitter.com/okazaki\\_taiiku/status/685086437687967744](https://twitter.com/okazaki_taiiku/status/685086437687967744)

## 参考資料 A

### Prepare for Q&A session

同じ分野の研究者として、どのような質問が飛んでくるかはある程度予想することができるかと思えます。それらについても、今回のワークショップ同様、ある程度は原稿として準備ができるかもしれません。場合によっては補足スライドを準備しておいてもよいでしょう。

以下は、表現集の項目だけを挙げております。どのような手順になるか、どのようなカテゴリーがあるかを確認してください。実際の表現自体は、資料のコピーをご覧ください。

- Q&Aへの誘い  
That's all. Does anyone have any questions or comments? I'd be happy to take your questions. Anyone?
- 質問へのお礼  
Thank you for your question/asking that/giving me your opinion/your comments.
- 質問が分からない (聞こえない・意味が分からない)  
I'm sorry, I couldn't hear you/catch you. Would you repeat that?  
I don't quite understand your question. Could you rephrase your question?
- 質問の意図を確認したい  
So, you're asking me about ...? Your question is whether ... or not? Do you mean ...? What you are saying is ...? Could you be more specific?
- 質問やコメントに同意する  
I agree with you/am with you on that point.
- 予想外の質問で保留したい・答えられない  
That's a very good point. I hadn't thought about that before. It needs further research on that.
- 時間切れ  
I'm afraid we're running out of time, so let me get back to you
- 終わりの挨拶  
Thank you. Thank you very much for your attention.

(taken from 野口・幸重 (2007) and Wallwork (2016))